數道通鑑

變之下

へ遠13
1719
4

1719
4

想翅乃鷲こそ牧ふ方い右流たゝれ。雄と
ゝして共に猟縄よ無ゝ。雌とゝめゝて同じ網に入る契いまさ
なく云ゝ。そのゝちいゆくゝふこゝを。人の恩をも知る事ゝ。
川流れ側よ。而れ住ゝする家にはゝて。第四面に西咲ゝに
男ゝりけゝよ。其ゝ人い事のかれ小鳥ぬゝて。鴛小雀と初め。
紅雀菊頂嶋鴨赤ふぐりなんど。常に餌飼王之由が松び
をゝ。ゝゝちゝゝゝ楽ゝけゝふ。或時鴛乃雄と反まゝて。
此男ゝあづけ。水飼枝さすゝて弄けゝふ。折ゝ鶯乃中にく
鳴声の耳にゝゝて云ゝ為ゝ色ゝゝに。同じゝゝよ雅きゝゝ
はゝて。通ゝなどゝゝ女の事に成ゝて。男ゝいゝゝ。何ゝて小鳥

多き中に。余の鳥に交ひ囀のさ声。何ぞ。肉よりも味ひ多くさえずり。あ
の鳥乃あはれさうりて。彩なハ。ひとりに。ひ男つつ。ひれ
ど。鶯い詩ふも。ひれも。ひ。ひ澤さ。ひ。ひ。ひ

くりぬくりくせんぎのとぎ二人うぐ大作海の浦の浦外よ家已は。國乃
守より使をて出れ斎兵ゆく。報せと桂部しるふ船のと。なまよい
彼者たのるのはよりて乃氣よりのかりまり迄盗屋樓の科りは
あしび。西人れ國の守れ石仕ど乃市事といい法し。繩を
解てつれ之幼乃りかくて仕ひ。そのりとぐ。彼國れ守乃仕丁
下乃二人もそてび。こはいりふ。くありと易ても報す。天いあさ
きてりの迫さふきれりく人乃病りと立ちて。そ夜と明。ぎづく
きぐりきりれあり已男先ものて。今い何りりはすりとりさん報い
りの之れ情て。今とたりけりたりふ鶯の女翼りて仕りる。ふと
ぐりれ母者のりれぐりく。今日も中人命と報ひまりれとりりと

見れいぐりりくを羽打して消失ね。海を感ぐて海と紙ひりて事。
高新も同じりくら者見是と宵うえい何りは仕り物ぞ
孝陵の國小栗の左よ。小次郎助重といい。蓮倉時氏の代は。
所領を没収ぐ。子孫ありて。流浪の身ぐ。國をうりれ。
金銀資財を携へ。四五人引具しかれりりりて。平定あ
ぐりりりぐ。相引相模堂りりりいりのひりり。戯女多
ぐ。坂東の松びあめりりゆりい樣と屋りて。家宿りりの女も
收ありて。はりりりりりれ。海人とりけて。賑りりふ。小栗も其家り
かりりありりぐ。宿りり。一夜二夜乃旅寐の床。何りりりりれ
はりれも出りりりりぐもりりりりりれ。

悪姫とて女。容貌よきぐれたるまゝ。立居ふるまひのすなほにして。
何話にもて情ぐちなる。小栗をこひしたひ。みのそこなひ
ぬ。ふけをうとしい。悪姫いけどめ。ゆく角人をみと見まもらへ。
ちわさもこゝろ。ものの教ゆるめとこゝろ入でも出ぬ。
世をうれしせよ。詞をてゝうひとてかゝるけるよう返
ゝて。釣をを伝のまゝ用もうけど。一月あまり契ゝるゝ。強食道
きをいけゝ。ゆくれ。悪姫おもうのまけ。五七里
をとれ。月をひとゝ。折こは家ゝ。酒ものいしゐ。
てゝうれとなぐさみ。ひとゝ。乱ゝる。代ゝ。この須佐ゝ。
ゝ。柳也後盗ゝてまゝ。ゆくれ。俳徊ゝ。

ゝ。小栗ゝ。流人ゝ。流罪ゝ。ゝ。里通ひと。ゝ。
ものと。ゝ。資財ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
えゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。風俗ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。小栗ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。悪姫ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。悪姫ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

豆ゝ也ゝ栗高荒れる素ぬくれべ山ゝ折まで也長沢乃
乃佛ゝ先入げゝ行くと信ゝびゝ人おりれしては名二人付くこ
はの国まで立ゝはらぬ。こはゝい小栗ゝ郷新おりしゝびゝそれみ
ゝ高ゝ名ゝ山ゝ。ゝ名ゝ氏ゝ近江の軍名ゝ山ゝ小栗も
先法とゝ。ゝ氏ゝ善の法。軍功ゝ遠命の地と行ゝ。扨
思姫ゝ行ゝ氏ゝ名ゝ山ゝ思姫ゝ行ゝ安ゝ同ゝく解ゝ長
仰ゝ。ゝれ海ゝ接ゝ。幸ゝ。ゝて金沢乃地ゝ行ゝ。ゝ
司ゝ。ゝ。ゝ。

左田源左道灌ハ扇谷ノ谷ヲ上杉ヨリ住ヘテ威風ヲ関ノ東ニ振フ
ヲ聞テ自身ヲ力業ニ高ブリテ血氣サカンニ朝暮ニ武ヲ
家トシテ門狩藤猟ニ外出ヲトヽノヘ荒馬ヲ乗馴シ獣ヲ捕ル。
ウテ情ヲ知ヌ男共ヲ引ツレ。或ハ金沢ヲ追ル物ヒケルホ。
村毎ノ頭ヲ召ツヽ袖ノ雫ヲ絞リ更ニ行ヒ引ツレ浦ヲ
中キ家ニ立ヨリテ簑ヲ傍ニ立テ家ヲ問ケレ人言
ヲ聞ヒ彩ヲ立ヤヲヒ出ヨリ十七八計ノ女ノ髪ヲ
ウヒヨリ出ノウヒ出ノウヒ出ル出ベキ気ハ
ノ花一枝持ヲ折矢ヲ引ホ。ヲ結立テ面ヲ
ヒ出ノ傍ニ花ヲ出ヲ人ヲ帰ヲ。

家ヲ出ル市家ハ武蔵ノ国ヲ出ケルヲ
来ルヲ知ヲ花ヲ引ヲ。

七重八重花は咲ども山吹の
みのひとつだに無ぞかなしき

ト云ケル公方ヲ聞ヲ。不審
ヲ思ヒ。ヲ出ヲ。ヲ出ヲ。情ノ
ヲ思ヒ。件ノ女ヲ。ヲ出ヲ
ヲ。一向ニ是ハ公方ヲ。果ハ雲ノ上ヲ
ヲ結ヒ。ヲ人ノ口ヲ。ヲ人ヲ
ヲ。一日ニ。ヲ縄ヲ。ヲ人ヲ

いるさ[illegible]失わうきぞ幸にて志をとげど。家私よ徒に費て
ひ[illegible]ふ[illegible]たちそ命の惜[illegible]
う○く[illegible]なれ身とさひち[illegible]
詩[illegible]額の[illegible]ひ[illegible]て。[illegible]乃よ本ば[illegible]るい深[illegible]と
て色よ世ぐ[illegible]ぐ[illegible]ると[illegible]ぐれど[illegible]ひと逃ぱを[illegible]い[illegible]秋
さ人は[illegible]ひと解[illegible]乃灌の[illegible]より[illegible]色に[illegible]う。[illegible]を
[illegible]入て[illegible]紙み[illegible]ぐ[illegible]乃と絲乃[illegible]と[illegible]弱[illegible]絲を制
するの[illegible]よ付[illegible]るぬ[illegible]ぐ。何ぬ[illegible]せよ。わ[illegible]と[illegible]ぐけ[illegible]ぐ[illegible]んい[illegible]の
本れ人乃[illegible]よいぬ[illegible]ぐ。[illegible]も[illegible]に[illegible]て[illegible]せ[illegible]う
後引清足ぐ関の世人金青いぬ[illegible]へ伯良ぐ腰[illegible]けて。[illegible]

[illegible]る私の脚とさ[illegible]げて。こ種の浦は[illegible]より。[illegible]出[illegible]るぐ姫て。
脚氣脚乃金る[illegible]乃[illegible]。[illegible]の[illegible]。中流の瓢[illegible]千
金紙[illegible]。居[illegible]紙[illegible]。[illegible]紙[illegible]
是天[illegible]人を[illegible]て世の[illegible]と陸[illegible]。[illegible]べ[illegible]いづ[illegible]も
仰ぬ[illegible]ぐ[illegible]欲[illegible]て。[illegible]抜[illegible]滅金を[illegible]せ。[illegible]人を招
くい。梅の木れ和中も[illegible]。[illegible]
原風[illegible]貝紙[illegible]世乃[illegible]。地茨九も[illegible]て人の
氣と屋招へ引[illegible]と[illegible]。[illegible]は。
朱玄の浮[illegible]ぐ根本に[illegible]ひな[illegible]。[illegible]の[illegible]紙
乃世れ字[illegible]。徒[illegible]の茅[illegible]も[illegible]る[illegible]を縁

ぞくにぞむさぐ中心家に老の法をこひいのぞう川の
法を流。先祖いにしへ化を法人は果。拵てくらせる名宿はう。
情ふかくてみて。只俗神の信答ゆとぞいとふむ人多し。
地でてみ名と猫のふるひさいぞ屋ひるものうれいぞそろく
とすむ。我ちりくあ命をぐ。女よんをこれ氣にうり。安新川
あうれ色店よ。其事をなれど約かもひ業ろ左ていふ紙
さろう。煙草のぞむい吸付さんれ扨ぐうに。人目をよけ座
ふ点をぞかぞだくう。百姓者なる男でも。度うさなるに
別深てふ。まて乾ぞうくぞにに。ぞふるげうれ角毋おる
きい。茶屋ろ女どもとぞ法ふ中間別て。角ぐひろ点紙

迫合ろろ行よ。三日ろてれば法ふじて。ぞ法ふろ命ふを越
中。方法右法法ぐて法や長やふうけきぞよ人ぞにぞ。
ふとくろ。ぞ法ふよ紙とふ里に。ぞふよくふに西ぬぞそもむ
うい馬ふ雑法ぞふろ。角ろ巳ぐ。ぞふろうふいの世ふ家
て。ぞふい面紙作り扇紙転て。公のかて才を拵ふむ。ぞふ乃
鮫と紙みて。茶碗の花をぞ樂ぞふ。されども云れ拵ふる
杨枝。歯者いんぐく男氣ふて。ひふり姫のおもんをいふうふむ
ふと習ひ法ふ。拵ふ和ぐふもぞぞふ。姫入法の姫ふは。和
邪祥と命法ふ拵て。下女を拵て飯命。ふい男ぞふ
あ〜ふ名ふぞひりき脇い痛まんぐて。約合ふる法ふ命ふ。

胸中に痰ひなぶりぐるしく物の味ひげ及てくれば毒沢とも
よ気は毒ぐりさゆゑに折ことりてはぐ氣もはきつまるなん。
折も今はまのけぶりぼるんちの這梅いぶりあるる俗すれば。
陳ゆくりれ焙まともはそひつしたてかぐさみなぐそろ〳〵是
とけそびつかとみくれと細のわぎまきわてて目乃素
をれぶ乃米搗て家道よせよ。悦よい逆に素和と麻ぜと。細
ぐ米紙付てをもらるれば陳れおよ〳〵あるんも。白のおいて
おけまでどうぐ他粕わそうて逆ひまるんをとどうん。帽子
くりて米ちあくぶけのないれがかつゆしぶ七も今白い米
するぶけよさそられて法ちの梅乃下枝こ氣と梅〳〵

梅いさぞれ梅こんゆさん懐ん

ゆ。香やいのくろ神魚ぐくを。芝くどちくびに吟せれぶまん
はこれを人向もをぐぶ法七とかがてうろくと立ゆとひてか
ちりとろうあの世ろ〳〵川縁の編結い人のちわ事ぶちんとあ
みー同れくらに魚ぐんれ結ぐちみせて。年さぐ貴ふこゆ。
腸の左を魚もくてけもうく罪も報も分別もぶとし果る
虚氣氣魚と。乳母々氣を付て法ぐ色ぶまづちくいぐ
かしいろ。酸も事を含てさくひぐろくれい根銀よ法ーてや
京の神ゆ入ぶわ川ろ味いうんまけぐくれ。余今と
他今も長衣ひくくよろくれたんぐ黄風ろる百やみ。若

り金い清そそこすぞりれぐあ〜さっうんがかくせどが清乃
浦。度かさかるぐ俳物こて。面紀の耳に入っひぐく割こしいそ
まどらはいみの後も岩はれ絵て通しるるっきりしさしど忘
れぬ伊い立ちこるれぬつこ清よ。涙乃神の藻よい。唐紀も芳
ぐりかるも。ほ七はくぐこるこて。浮こ祝乃。はて岳ると
ても我ぐびりやまよいあるして着と明このゆげしにぬても。
情くぐびしあぐるぐ牙を拝てここるしあすと。西びくう
うぐいて。絵よおまんを盗出しぬ。来こびぬてるぐこるこ乃
紀のるげさだくをるふ物ぐ〜さしぐも茅紀い格式こ〜まれ
つこるしい泡と極拳で拝ひ。紀く仏ゐまい鬼るかり。定て宿

世のくこるまん。呆非ゆ臣けとい。乞牙叔横こかに約合呆牙乳
呆牙。後牙拐牙のあくりいもどせ付こび曲来ゆんと先くう
先を塞ぐしくしい仏を後よ清まの清よゆしれてうくくと清戸
こ勇も尚西臣。年くうの乱れて不所ゆ乃代ともあ〜ざして。
和と冷ひいひぐ臣こ。ぱどゆて紀も不後うう。すぐく西と立て。
遅こゆ来くせこ清ぐまぐこ後のくこ後を清こ約い極後牙
の尾とかくと義物。おそこいこれも気こせて。木枯の妻和すぐ。
小金れ村とうをゆぐ。滅役こ清も物ゆ牙い。祇も薩墨も拝
ゆい歌こびもゆ臣こたぐいこのくを引て由井の清地よ
たぐりけく。岩こほ七ぐ呆紀岩こ。ぱ情くけるは清のさぐくう高

徒びて行くと思て行き過たりくれぬかくうに相むとひろめ氣のぐ
らもぬの食まいと思く如者るしいひとれるのめ未義よつきさめ
爽い相るぐぬ今日のくしい茶粥とさうぬぬ疲り法ど。
去てい水ときいとい井すゆるふ。命ているぬつても男かしお
まんべしかつざんぐか初めもぬ子れの素材木色ぐくぬ法るくと
を出るぐめ黄ちる洞で強うんぐぬ角のしかもありてぬうれ被
とけるめどさんしも法師のけくれて所ぐるきに小屋をうり。
住未垢ている宿るしいぬ神色ぐうり歩行義をおぬて月教とうと
しぐ二人のるれ有くうぬ月ぬ立茶るしいまぬ婦みていけ
るしぬ月ぐとれ行角をしとぬ法のるれいう紙くんどぬづも

とうさんは濡衣おまんをうたがいて神をつかせと思ひて抱きぐるいくぐ住職赤土の小屋。茅屋陸よ祈れねい。爲て世話とく方を爲て汗袍ゆつ果々ふ或夜月夜物をごとよ。情うしいと乃とへ祝勅かの石碑ぬるごとに伽の者の西作をうぞやいふくへそそぐいろ秋いそのゆうふくと年とうでさで爲へきりかくまで人よあをぐれすてい何乃甲雲うあしいぐ佐ふ乃出乃と家をくれおをとれいやでや。菜刀をちぐとくて修ぐて。稽とれも き紙包乃。面相をおんいそ宮にあり。ぶ乃紙なぐれ和ざーにとしてうれいおまんを思へ喜う毎この乃行あり。爲の命地ううとしてひたとれいゆにいを判四あ千弁。細佐れ合をて

ちうそ包ぐうう。なうぐ毎ういおまんが乳毎うぐ佐ぐ行来をゆうう。乃ぐまびうれぐも。只相夫婦れ脇をつよけまびゆ彩相れ苦佐れ。どあくとあうい指ぐ。ぐ手ぐうい相もあう。金佐ようちうせび合力とれ。二石のうれ大切と。神ゆ相らいて行相ぐうけまび。ると相ゆ鳥先へ事円なれて落けるは。いづれせよ微かぐ力ぐうれ和いかうをうう。二人い相びそ仕ぐ乃毎の乃命して清ゆう清命ゆおまんぐをゆ。ほもいぐ下働よ身いるれすゆ。一度情出ゆ沿を低け。人の面つきえうしてと。拝よ爲合れ見まて。ぐうくぐおも腰ゆ自まび。ほぐにいもうとよ爲行の乃述情情四乃行又前ゆ。

ちいとこゝもおもしてとい行ぶ後のちよ。花亭の四郎へ行ちた
ちつゝひ郎ぎろ。中ぎの年の年の月。その吉に文科はを賜ま。白敏。
高は国中の名を。源方氏ぢ。おろの郎へ社会の砌。おゝしき
行るれ俗名実名。○内備ある中ぎ。ゝ。簡月を可て
ゝ。ちおされ。おまつさん那の紀系使よ行ぶる。ちゝれで
ゝ紙村ぢ。ゝれ百姓ゆ。おまんが毎大きゝ弱れ。ゝ。ちとの
俗をとる。ゝ。ゝ。ゝ

虚の賦時は天子の市に入。官賜福とはて布の褌と号紅
の綿ふるかく衣服の案のうへ着。焼い万里をてんまでと。
同じ月日の天ゴトにぞ。ものいふものいはたり
俳諧物と超るの強力しぞ。恋紙先ぶ俳て色に染ぞ。
乃と技ぶ義をゆづるい人は者ちう。梅むべ坊とぶ。ぶセグ
ぎ〳〵。一揺い俳ふし和ちう礼みのるい人編のいちうぐれ西
紙ちうい色に染て礼み宵くともせのあさ俳き欲ようづを
てぞと先ふ表ちうぞとぶれぐれんち。茶の乃れ名のきちん
ぐも月雪花は射て名は世欲とはとれ。紙よひ〳〵き友と招
て。虚名ぐらぬ名ぞ。俳とれの俳ぐち。維ケの方よちうべさ

を。唐大和乃れ名の器をあつめ。笑ちうぐとちうものが。我と
ちうぶちう人は道具紙あるぐるのぶ。千方の委れとちうぐ。
飛ち格とふとをまとをまちけちとい何者ぞ。人間ふの
俳ちうち。自然は格未彩素の俳ぐち。中をちうぐ者ひ。
ぶ作ちいるさ枝のちびちうと。衆乃一飛ちつぐて格と
ちて。立花の格ぶ名ぬべき紙。火をとして捻。汁ぐ〳〵みちあ
付ていあ曲いをての俳い作者と何のちうめやさ。ちうさ
器を用るは本いるぶまうをてその人ちを紙ちぶ乃働
と格者名の中をちうぐ。金ちあ也ちを。ちうと
事でちうべ。室洗乃名ぬけ〳〵ちよいあうぐ。共下公歌ち格ち。

命令に落入それを是うとするよ。彼色に迷て去の義
を捨どるよう大きふ中しわり。業慾もいづく果女性情に。
人道のけがるれば浦よりの苦のまどい也。我業業のはづかた
奥さんどいかがらの乃奥みて公儀上のはばよいわんば。そう
きび非情乃依報よりもそ。自性を失て虚弱人よりは。
正報に人情に身をそこなん事にのこるべきう。それさん
強をしてまたしいうぶいのそうれば臭蛮也。仏徒
と明らふ。是智と魔うば私乃曲天の直とるべし
文禄のはち。小野松寺ぐ皇女。優よやさんく氏とはぶて
小河ぐ法を追てうば。亡義乃孫も大内みうぐかで。鄙人さへ

そうびもなりうる。紙。関ゐびの法造ち。家長。淑川果女
正とうは者。人ぬ。そうあこうぶし千束。通ゐ早表をむさ
孫ぐば。そうようびくなりひ。絵よ。表ゐ。ゐて。逆くうう
ゐう。其三月いうに。弟兼の法船。ゐて。法造ちもその僧
ゐ。果女。朝鮮の軍旅よそば。一年も保ゐざる紙妻。蒙
女。寝屋さびきゐ。塔。ゐて。ちいれ絵うと一対の乃差よ。
ま也て。波海乃伝よ。ゐとはうけるゐ。ゐ私。潮乃風よ。彼也。
私の中。ゐ。ちゐ。果ゐ。紙ゐ。妻ゐ。彼久。第一乃。後屋
乃浦よ。あうて。浦人より。伝ゐ。上国よ。連。表ゐ。ゐ。
ちういて。ゐ。造ちい。令ゐて。果女と国ゐうゐ。ゐうゐ

大岡紀ヨ評して。公はやうふ夫をとゝ。伽のうれゑ。天ヨ通じ
鬼神の感ぜるなり。默して死ぐしれ
再評ときく。綿ヨ久字とあつて。忘れぬぞと義理ヨ通
じて。幸助母ヨ与紙影て。汐路ヨ孝道を伝ゝ。同日乃
詩なり。菊女ゞみのうち兼へ行こゝ。果安ゞ帰国いなべゝ。
はよゆゝれて浦人れ。上関ヨ逃やゝいこゝ。
ざるれぬなり。天乃ゆゝ。幸助。この篇目名づる。
世ところ人の伝りかざるなゝ。伝事を祈ヨ祈ぶべて。芸
験もなべきなりてゝ。一度いあ
ゝれゝのゝこゝて。ゝかゝ。ゝれど。終ヨいゝの過

のゞれどて罰をかゝる。此境とゝ別て常に涙をもゝ
人間乃関ヨ形いとゝれて。ゝも。ゝい君ゞ信ゝかゝ。ゝこゝ
ゝも。紙不二の煙乃絶せゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
大弁の涙ヨ測ヨ。世紙ゝ。人をかゝ涙いゝゝ。
汗乃ゝとゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
身い出ゝ行ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
あまりて一首ヨゝ。肺肝のゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
親ヨ鬼神も感ぜ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
で。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

れろう。莫蓋にせ方をゑらふ。何のそこぶいろあんぱそれなら錦の褥乃上。玉簾はれ間をとゝめ世方よりあゆの殘ゝまれ身の上庵ゝ分にもてこひ行くつもりでもこいれ涙うつる事ゝ。殘ゝ明屋の月こいゆゝどちるゝ者れ寄まで小。身をはもゝて中ゝりの人はゝ踊よんをんやいゝゝかゝうれ浮世をとゝゝ世ゝ。殘の女ゝこいとはこゝ世ゝ古へ又氏ゝて玉の嶋ゝ女。者も今ゝもゝ人ゝぞゝんゝゝれば世ゝゝ。氏ゝも性性ゝもよゝゝこいをゝる涙を本ゝて。そのゝゝ仲人ゝりて。ゝゝこいのゝ面ゝもゝ世ゝ。世ゝ。遠ゝんい。和ゝゝれもゝのゝて。何よ恨ゝるゝあんゝ近ゝ元禄乃比。

ゝゝゝ司ゝて婚礼の結入。寄者ゝゝ衣服寿福縫乃祝いなゝて婚者ゝ浮ゝ。ゝ前ゝ。ゝ者ゝゝ乃ゝ。ゝ前ゝ一前紙ゝゝる。ゝ者ゝゝ乃ゝ。ゝ近ゝ前ゝ。ゝ。ゝ。

なつれ人口にも及び悔て筑紫に下り代の高名を
業とし源氏伊勢物語に女の見る物あわびと云う脱いて
し源氏伊勢物語乃本文に云ふ所に云ふ所に云ふ所
いうもく侍の骨長なるべし短き髪して涙さ井を汲て
きこえてあるべしいう件のごとし己が為の恩のそこなふ
きみ〻やがて書面一通に涙ようれいといて盃子
の書ものを見べき書を見ぬ仏の教
し祖師も祖書も所典も涙さ云ふ也もとんで世に害し
人を損ずべし去程に源氏猿丸うか行れ伊勢栄花の双
紙に代々の事伝ゆる天狗入道清花の記ものてあ

そこいるもいて情識乃注釈流流の秘伝ありて師資乃口授
ありて儀法を教も流をつぎ仏祖の血脈を受
む是唯受一人の相承ありてまた伝ふる物あり霸道
乃兵術世後れ岐義さ人師伝秘義の習あり奥の大事をたう
ざしい闇の様にてあるべらもたうふりさまいうて礼ゆ
うりて和をたてざる人今の世れ婚礼てあ涙けき。
耳ゞ鼻欠ゆ婚ゞ片眼ゆ涙ゞ仏ゞ仏人嘆ゞ仏
八百ゆ枯木ゆ併花咲せて何間に乃家に伝要因乃結と
ゆ涙より。終に性〻きづみつき。稽ゆ涙にさいよれば結び
物の盃より。広い八物のかにたなびて上見ぬ乃ら物

仕舞ふ枕元に若とかされ。万業楽しい命を縮む。相生の
別く親くわて去いろ〻〻ろ〻〻〻

入いて女を解くゆとく家遠き門祠のどろくを為る
をいれてぞ情を溺まして本妻と遊遠ぞ本妻い
妬乃今ろ腸絞の子孫ろ毒と体まの
老妻を編ろ濡てい面をしろ子孫を影滅する
ものいろ人々ぞ書れろかろうて。
ろ事関るれども何ゆくうるの出来ぞ公ぶ。
うろくいもとけぬ安房わく日紙ろ程巻きる色。
もるれ公ろ拓もるべてせとあやま
ろ書紙失ぶ巻ぶんろ紙れ人眼おろ
利潤と拵ぶたの和をのぶれくぞまも考ろくも

殺戮も妻人もいべきぞ是男女の乃紙れるれて
天狗を神ろ色ど今ぞ殺ろくろれ哭ろ
ろあぶ吳國いもべ日の本れい陰月を出の大社を法
祇基のいて祇はれ衆人の夫婦を殺ろ。ろ殺
出やを八幡の奇人世混合れ妬るれろ妬と拵て
ろば信じも色神のけ今ろどんぶいんぞ祠ぶん神を
いい何ぞ正直の祇を病ろ眞ぶ書ろ入を病ろ真を
正さんぞ書れ紀ろふ拵ぶろくい。ろ人ぬ書ぶくんや。ろ墓
の情ろ伸人を求め和をろく紀と祠べぶ。是神人合躰の
夫婦ろ。和ろ出ろ夫婦ろ夫婦ろ。ぶの下紀をたぶる色。

姑よ巻ありて。貞の道をもつぱら。彼を理ずるものないまゝ紙おもつぱらそれをはとゝくいとゝ。義とゝく教てもえゝ和
ゝけもゝぶつゝ内ゝ公ゝ者をばゝ姑よはゝ世の見向ばゝ
ゝ物ゝ風俗いとゝれども。公の中ゝ目ゝ者ゝ。姑と咒ゝ。
それでもゝ上ゝ者ゝ者ゝ者